

展覧会情報

この夏以降開催される地図・地理・歴史に係る展覧会・展示会等についてお知らせします。

企画展 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～

会場：北海道立文学館

電話011-511-7655

会期：10月30日～11月28日

特別展 - アメリカより里帰り 大図初公開 - 伊能忠敬の日本地図

会場：仙台市博物館

電話022-225-3074

会期：6月4日～7月19日

特別展 - アメリカより里帰り 大図初公開 - 伊能忠敬の日本地図

会場：MOA美術館

電話0557-84-2511

会期：7月30日～9月5日

徳川園開園記念 秋季特別展 アメリカより里帰り 大図初公開 伊能忠敬の日本地図展 - 日本人が世界一正確な地図を作った -

会場：徳川美術館

電話052-935-6262

会期：10月2日～11月7日

2001年、ワシントンの米国議会図書館で、伊能忠敬(1745-1818)が制作した実測日本地図「大日本沿海輿地(よち)全図」の明治時代の写し207枚が発見されました。忠敬の地図は縮尺の異なる、詳細な大図214枚、中図8枚、小図3枚の3種類から成り、19世紀初頭では実測の緻密さで世界的な水準でした。明治に正本が焼失したため、大図は国内で一部地域の写し約60枚が確認していたのみでした。今回の発見で、伊能大図のほぼ全貌が明らかになりました。

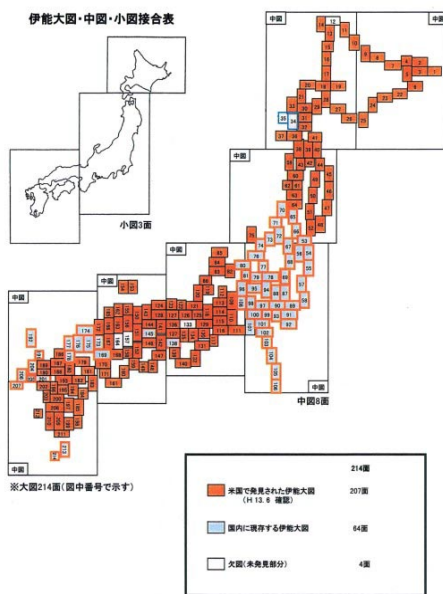
本展では、米国で発見された大図写しの実物を初公開するとともに、フランスで所蔵されている美しい中図、国内現存の伊能図の優品ほか関連資料などで、伊能忠敬の業績をご紹介します。あわせて、伊能図以前に江戸幕府がつくらせた幕撰日本総図や民間で刊行された日本図、伊能図を参考にした地図も展示して、江戸の地図史、伊能図の歴史的意義を探ります。

mini 地図ニュース

国土地理院は、空中写真画像データを5月1日から刊行した。これにより、国土の現状や変遷を記録した空中写真を、コンピュータを用いて直接簡便に処理することができるようになる。

国土地理院では、地図作成に使用するため、昭和22年頃から全国土を対象に繰り返し撮影された、約100万枚に及ぶ空中写真を保有しているが、デジタル手法による地図作成や地理情報システム(GIS)を用いた解析などの要請に応えるため、今般、空中写真の画像データを刊行する。データはCD-ROMまたはDVD-ROMで提供される。

「伊能大図」 一覧図



地図絡み

第17回 水仙ゆれる花輪線

井口悦男(帝京大学講師)

東北地方には、南北に走る3つの幹線鉄道に対し、それらを東西に結び、山越えの支線が何本も見られる。その一番北側、100キロ少しの路線が花輪線である。

盛岡から20キロほど、いわて銀河鉄道で4駅目の好摩^{こうま}から、奥羽本線の^{おおだて}大館までの未電化単線で、ディーゼルカー数両のこの線の列車は、盛岡～大館間で運行し、2時間半から2時間(快速)で結ぶ。

現在、盛岡側から2/3の十和田南までは、東北自動車道がずっと並行する。高速道の幅広く立派な構造に対し、先輩の鉄道線は、至ってささやかで、いまや見落としそうな施設である。

ところで、東京～弘前間を、^{ひろさき}鉄道を中心として一番早く行けるのは、盛岡で新幹線から東北道経由のバス利用による。次が、八戸で在来線弘前行き特急乗継で、1時間ほど遅くなる。さらに1時間ほど余計にかかるのが、上記花輪線経由、大館



時刻表の索引地図 JR花輪線が見える東北地方の部分(JTB時刻表 2004 4月号による)
旅に必ず目を通すといってよい路線図。JR中心の描法で、島の形は二の次ながら、微妙にカーブするこの種の図を、結構頭に住民みつけている人が多いのでは、と思う。

乗継となる。

一番時間のかかる花輪線利用で、ある花が線路沿いに続くことに気付いた。それは、春先、色とりどりのラッパ水仙が、点々とゆらめく景色である。株分けが重ねられ、延々と車窓から眺められるようになったとみられる。



花輪線：鉄道ジャーナル社より

時々は桜咲く季節と重なる。ようやく里山が若草色になる折である。ゆっくりの在来線の車窓から、線路脇の様子が刻々と確かめられるし、しばしば停車する駅々は、いずれも土の香豊かで、それをじっくり見渡せる。まだ土色ばかりの地面に、緑濃い葉が出そろい、その中に、白に黄または朱を真ん中とする大輪の水仙だけが色を振りまく。

盛岡から大館を越え、弘前まで、その沿線、人の日常移動する範囲に、この花のとぎれることはない。北国では、春の先駆けのしるしとして、水仙が好まれるのだろうか。

駅のホーム上をはじめ、まわりの植込み、沿線の家々の庭からその道脇、さらに川の土手へ、ずい分離れた所まで広がっている。

弘前の街で、庭の水仙を摘んでいる人を見かけて声をかけると、この株はよく増えるとの事である。禅林街手前の天神社に、満開の梅見を訪ねると、その社務所前の地面に、無造作にふさふさした緑の水仙株が横たわっていた。ある感慨で見た花輪線の水仙列の株分け現場に接したかにフツなつた。

この春告げ花植付けの習慣が、北国で、いつ、どこからはじまり、広がっているのだろうか。桜に寄せる心情の手軽版と思う。

(04.05.20)

ICIC ニュース Vol.9 No.1 通巻 29号

発行年月日：2004年(平成16年)6月1日

編集・発行：財団法人 地図情報センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5

神保町センタービル5階

TEL.03-3262-1486 FAX.03-3234-0872

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/icic/>
E-mail icic_map@yahoo.co.jp